

第3回 安来市総合計画審議会 議事要旨

1. 開催概要

日 時 令和7年6月12日（木）14：00～15：30

会 場 安来市役所安来庁舎 3階 防災対策室

出席者 以下のとおり

【審議会委員（出席：14）】

（敬称略）

所 属	役職	氏 名	区分	備考
学識経験者		勝部 慎哉	学識	
島根県立大学	准教授	高須 佳奈	学識	
学識経験者		野々村 千映子	学識	
米子工業高等専門学校	准教授	川戸 聡也	学識	
安来商工会議所	事務局長	渡部 仁	産業 （商工）	
島根県農業協同組合やすぎ地区本部	企画総務部長	矢田 篤	産業 （農業）	
社会福祉法人 安来市社会福祉協議会	副会長	小松原 勝之	医療・福祉	
安来市自治会代表者協議会	会長	岸川 勉	市民団体 （自治会）	欠席
安来市労働組合協議会	議長	松田 英樹	労働団体	
安来市観光協会	会員	醍醐 靖幸	産業（観光）	
一般社団法人 安来青年会議所	理事長	矢田 敦子	産業	
安来市子ども・子育て推進会議	委員	角 陽子	市民団体 （子育て）	欠席
安来市 PTA 連合会	家庭教育委員長	来海 雄馬	市民団体 （教育）	
やすぎボランティア団体ネットワーク	会長	板持 潤一	市民団体 （NPO）	欠席
松江公共職業安定所安来出張所	所長	中村 明臣	官公庁 （労働）	欠席
安来金融会	幹事	重道 直樹	金融機関	
株式会社山陰中央新報社	米子総局長	藤井 満弘	言論	

一般公募		寺田 琢磨	一般	
一般公募		石田 優美	一般	
一般公募		中村 高志	一般	

【事務局】

部 署	職 名	氏 名	備考
安来市政策推進部 政策企画課	部長	宇山 富之	
〃	課長	松崎 理泰	
〃	係長	吉原 秀和	
〃		清水 仁志	

【委託事業者】

会社名	氏 名
株式会社エブリプラン	森田俊作、鶴見太郎、加納里彩

2. 議事次第

- 1) 開会
- 2) 会長あいさつ
- 3) 報告
 - (1) 市民ワークショップ開催結果について【資料1】
- 4) 議事
 - (1) 第3次安来市総合計画基本構想（案）について【資料2】
- 5) その他
- 6) 閉会

3. 配布資料

- ・ 次第
- ・ 審議会委員名簿
- ・ 【資料1】市民ワークショップの開催結果について（報告）
- ・ 【資料2】第3次安来市総合計画基本構想（案）について
- ・ 【資料3】タウンミーティング実施方針
- ・ 【資料4】今後のスケジュール

4. 報告

事務局より、資料に沿って説明を行った。

(1) 市民ワークショップ開催結果について【資料1】

<質疑応答>

なし

5. 議事

事務局より、資料に沿って説明を行った。

(1) 第3次安来市総合計画基本構想（案）について【資料2】

<質疑応答>

発言者	発言の要旨
委員	市民ワークショップのプログラムの中にアイスブレイクという項目がありましたが、これは何をやるものなのでしょうか。
事務局	ワークショップに入る前に、皆さんにリラックスしてもらって、安来のクイズもそうですけれども、緊張を解くような意味でございます。
委員	そういうものはこういう会議にも必要なんじゃないかなと思っておりまして、やっぱり言おうと思ってもなかなか言えないとか、どんなことを言ってもいいかわからないということがあると思いますので、ぜひこういう会議も取り入れていただきたいです。 このアイスブレイクがあった結果として、ワークショップの中では貴重な意見がたくさんございました。中でも目に映ったのは、「若者が市に残る、出ない結果のみに焦点が当たりすぎている印象がある。なぜ残るのか？出ないのか？」という意見があったという話を頭に入れた状態で、この基本姿勢云々を見ておりました。 問かけにあるものが、おそらく最後の写真とかイメージとかで表される安来のワザの数々をビジュアルに見せるという話なんです。12ページのところですね。要するに聞きたいことは、若者にしてほしいことというのは、この写真にあるような伝統芸能や技術を安来市で継いでいってほしいという考え方というのがあるのでしょうか。それとも何か具体的に若者には安来市でこういう活躍をしてほしいという安来市の願いみたいなものは含まれていたりするのでしょうか。
会長	安来市の市民向けですので、一つは安来市のいいところを市民の皆さんに知ってもらおうというのがあろうかと思いますが、今のご質問はそれも踏まえて若者に対してそういったことを受け継いで、あるいは発展させてほしいのかというご質問だったと思います。いわゆるこれから先を生きていく若者に対してのそういう思いを持っているのかということではないかと思います。

事務局	端的に若者にワザを継いでほしいというふうなところを前面に押し出しているというわけではないんですけれども、やはり最初のコンセプトでもありました安来を知ってもらうということとか、それをまた皆につないでいくとか、そういうところの一つのキーワードとしてワザというところを入れています。ここで直接的にみんなにワザを継いでというところを前面に出すということではなく、あくまで総合計画の中でワザをキーワードとする中で、ワザにはこんなものがありますよというところを知ってもらいたいという主眼があると捉えていただきたいと思います。
委員	ありがとうございます。そういうものなんだということを分かりやすく教えていただきまして助かります。私はこういうものがもっとたくさんあって全然いいと思っていて、要はやることがないから都会に行ってやることを探そうという姿勢の若者も中にいるわけでございます。そういう方々は都会に見つけたものから執着をして帰ってこれなくなってしまうというのが中にはあると思います。安来市の中で完結できるもの、安来市の中で都会に出て行かずとも得られるものがあるということを知らずに外を出ていくのではなくて、知ってから分かっていただいてから、あるいは外に出る選択肢と見据えて考えていただく、そんなことができるきっかけになるのであれば非常にありがたいなと思いました。
委員	このワザというところを読んで、私は市民ワークショップに参加しましたので総合計画の資料を今日持って来たんですけど、一番は人口を維持することじゃないかと思っています。その中で移住定住とか子育てしやすい安来っていう発信をする土台にするのがこのワザということにするとあまりにも硬くて男性的で真面目で地味っていう印象を受けます。女性や子育ての話に、ここからどうやって持っていくんだろうみたいなイメージがしました。率直な感想です。
会長	ありがとうございました。ワザという言葉が、男性的な硬いイメージだと捉えてしまったということでございました。その他ご意見ございませんでしょうか。
委員	ちょっと質問の趣旨がわかりにくいかもしれませんが、11 ページを見ると、農林業のことは一つもないような気がするのですが、ここに産業ということで、農林業みたいなものはあまり入っていないような気がするんですけど、そうでないんですかね。
事務局	ありがとうございます。農林業は産業の中に含まれるものになってまして、現行の基本計画もそうですけれども、産業・観光・雇用の分野の中で農林業のことを謳っている状況です。
委員	産業の中に入っているということですか？
事務局	はい、産業に含まれるということで思っていただけだと思います。農

	業をどうするかというご意見はありがたいです。今、総合計画が基本構想と基本計画とある中で、基本構想の方をいろいろと審議いただいているんですけども、具体的な施策については、その次の基本計画の中で、もうちょっと具体的なところを出していくようになりますので、そのようにお願いしたいと思います。
会長	農林業は産業の方に含まれるということでございました。基本構想ということですから、なかなか具体的なイメージを突っ込んだところまではこの中には盛り込めない部分もありますけれども、計画ができて、そこから施策が生まれてくるという順番があるんだと思います。そのほか何かございませんでしょうか。
委員	来る前に目を通していて、確かに安来は「ワザのまち」だなとは思ったんですが、ここに文章にあるように漢字の「ワザ」とそれとカタカナの「ワザ」があると、さっき委員が言われたように、やっぱり硬いイメージというのは拭えないなと思って、もっと他に言い換える言葉がないかなといういろいろ考えてみました。 今抱えている人口減少社会の中で、政府も都会から若者や女性を何とか地方にっていう政策を取ろうと思って、そう簡単にいくものではないし実効性ある施策というのはそうそうないと思うんですけども、そういう受け皿としての地方都市、その中でも山陰の中で安来が選ばれるまちになるために何をアピールしたらいいかという、やっぱりワザというのは重要な要素であるし、芸術というのも技と芸術、美と技かな。足立美術館を代表とする文化があり、そしてプロテリアルとかキグチさんとかいろんな鉄鋼関係の産業も先端的なことをやっていたらいいし、両方とも非常に安来を代表するものだけでも、今はそれが十分に若い人にもアピールできていないからみんな進学の際に外に出ていってしまうということもあると思うんですよ。もっと若い人に訴求することを狙うのであれば、やっぱりそこで働く人にもうちょっと視点を当てて、どんなに生き生き働いているかというところをこの写真とかではやっぱり見せるべきだと思いますし、このキャッチフレーズのところは4案あってこれをどういじればいいのかというのは思いつかないんですが、もうちょっと柔らかめにした上でチャレンジングである方向に何とかいじれないのかなと思っています。皆さんの意見から聞いてみたいなと思いました。
会長	メインターゲットを市民ということにしているところですね。だから市民の皆さんに対してアピールをとにかくしていこうと、安来市民が安来の良さをまず知りましょうということでおそらく今のワザという言葉が上がってきていると思うんですけど、こちらに来る都会の人の、安来市の外

	の人のためのものではないということなんですね。実際には施策としては都会に向けてもいろんなことはされるとは思うんですけども、その辺の考え方をどういうふうにするのかというあたりかなとは思っております。
委員	ワザのことだけで言うどうしても硬いなという意見はわからない話でもないと思うわけですが、これは技だけで終わっているからそういう印象で持たれてしまうんだろうなと思います。「技」というのは「手偏に支える」と書いてあって、これは手から出たものでございまして、要は人が作っているものでございます。人がいるということは心があるということでございます。技というものは昔語りの職人がお金をもらってその通りのものを作るなんていうようなことだってあるものですけれども、結局のところ、これもお金を払ってくれた人のため、自分の技術を信じてくれた人のために何かおかげをあげようというような気持ちでもって手を支えて示すものが形になっていると思うんですね。だからどうかですね、このワザと読む漢字として並べられたこれらが示すテーマの裏テーマに、人の心と触れるみたいな、人の心とそして歴史と文化、この土地をワザを通じて触れた心でもってこの土地を誇りと思えるようなそういう仕掛けみたいなものを作っていただきたいなと思います。
副会長	市民ワークショップでは学生のいい学びにもさせていただいて、安来のことを一応ネットでは調べたけれども、やっぱり人に話を聞いてみないとわからないよねっていうのが、うちの学生たちの多くの感想だったんじゃないかなと思いますし、安来のことを知らない人がそこにいるので、市民の皆さんが本当に優しくこうだよ、ああだよ、こんなのもあるんだよってスマホを取り出しながら検索をしながら教えていらっしゃる様子が非常にいいなというふうに見ていました。 一方で先ほど委員の方からちょっとワザという漢字が硬い、男性的だというのも私も確かにそうだなと思ったりもします。一方で、多分そこにはこれまでそうだったというような歴史的経緯があるんですけど、もう少し本質的なところで言うと、多分本当の意味での技というのは先ほど委員もおっしゃったような「手をかけ続ける」というような意味がおそらくあって、それはそこに心があるからとか人を見ているから、だから工夫し続けるというところの方が本質なんじゃないかなというふうに思っています。工夫し続ける技というものを今までのプライドとして持っている安来だからこそできる新しいまちづくりがあるのではないかなというふうなのがおそらく仰りたいようなことなのかなと思います。ワザというのは様々な漢字があるということがもちろん面白い発見ではあるんですけども、その本質的なところ、「もっともっといいものを作

	りたい」とか「もっともっと良くしたい」というのはそこの根底にあるはずで、それが何を対象にそれをするかによって違うだけで、そこまで深掘りすれば「もっといいまち」とか「もっとより良くなるために」というところとつながってくるんじゃないかなとも思って話を聞いていました。 あともう一個ありました。ちょうど「匠」っていう言葉も多分あると思うんですけど、今例えば安来の和紙は女性の方が職人さんでいらっしゃるんですね。あと新しい産業という意味ではデジタルみたいなものも入ってきて、いろんないわゆるデジタル職人さんがいらっしゃる状況ですし、そういうところも視野に入れると新しい技とか匠というような言葉の使い方ができるような気もいたしました。
委員	「本物」みたいなワードでもいいのかと思います。変わる言葉というところで、今までこうだった、そして心をかけて工夫し続けるみたいなことが、もうちょっと違う表現が出ているのを先ほど委員もおっしゃっていたんですけど、深掘りしないとわからないということの面白さに気づいている人にとっては、安来って多分今でも既に面白いまちだと思うんです。多分それが分かりにくいというのが課題なんじゃないかと思っています。移住定住とか若い人たちの心をつかむというところで言うと、本質はもちろんあるけど、それをどうわかりやすく、今っぽく表現できるかというところに、何か鍵があるような気がします。
会長	お聞きしながら、それを変化させようという趣旨でございますので、感じておられることをいろいろ言っていただけだと思います。
委員	先ほどの委員のお言葉にもあったんですけども、やはり分かりやすさというのが本当に一番の課題ではないかと私も思っています。というのも、所属団体でいろいろな事業をするんですけども、そのたびに「今の現状がこういう状況があって、だからこれを解決するためにこういう事業をやって、私たちは解決目的達成のためにこういう事業をやります」という流れでいつも事業をしています。その事業を作り上げる中で参加してくれた方々にいろいろヒアリングをさせてもらうんですけども、思っているよりも安来のことを知っている人が少ないというのが、特に私と同世代の30代の方に多いなと思います。欲しがるものはかなり多いんですけど、例えば「安来にもっとこういうのがあったらいい」「こういうサービスがあったらいい」というのを言われるんですけど、実際に調べてみたら、もう安来市がやられているんです。ただそれは言っている側が知らないだけなんです。例えば子育てのアプリ、ありますよね、安来市に。ご存知ない方がほとんどかもしれないですけど、あるんですよ。それを「アプリでやったらいいのに」って声を出される方がいるんですけど、「いや、実はも

	うあるんですよ」ということは、発信力が足りていないということなのかなと私は常々感じております。それで、5月11日に開催された市民ワークショップに私も参加させてもらったんですが、その中でもやはり外に発信するのは結構やっておられるイメージがあって、観光でも、産業でも、移住でもなんですけど、市民に直接「もっとこういうことがあるんですよ」というのをやっているけれど届いていないということをもっと重要視した方がいいのかなと思っています。せっかく今回皆さんに集まっていたいてこういう計画を立てているけど、それが結果的に分かってほしい市民に届かなければ、これだけ力を入れて作ってももったいないと思うので、もっと重点的に自分のこととして捉えられるような形でこの構想を表現できればと思います。内容は非常に良いと思うんです。「ワザ」、確かに硬いと言われましたけど、私はこういうふうの一つのものに対していろんな意味がつながるというのはすごく面白くて、深掘りのきっかけにもなるのかなという思いもあるので、結局中身は良くても見せ方次第だなというのが、今この資料を拝見して感じた次第です。
委員	キャッチフレーズについて、頭の中でいろいろ考えていたんですが、ここで今の「ワザ」の意味合いというのは非常に深い意味があって、それを何とか生かす方法もないかなということと、もう一つ、この「安らぎ」という言葉がキャッチフレーズの中にもいくつか出てきますし、アンケートとかいろんなところでも出ていますが、この「安らぎ」はやはり「安来」にかけた「安らぎ」の言葉ですよ。これはやはり必須という気がしています。「安らぎ、ワザ、なんとかの安来」みたいな、何かちょっと工夫していかないと今あるこれだとなかなか覚えられないなのがあります。若い人に向けては、とりあえず外へのプロモーションよりも地元でブランディングして若い人にも分かってもらおうという中で、私の仕事でもいろいろプロモーションとかそういうのをお手伝いしたりしたこともありますが、そうすると今回写真で見せようというのは非常にいい方法だと思います。そこにやはり結構重点を置いて、この手元にある表現はサンプルの写真でしかないですけど、これはちょっと古い手法で、匠の技とかを紹介するときってこういうイメージ写真が入って真ん中でインタビュー記事を載せてという感じでやっていたんですよ。やはりもうちょっと楽しそうに人が生き生きと明るく仕事をしているような様子というのを見せていくのがいいかなと思います。いろんなパターンを今考えておられて、まだこれは単なるイメージの例でしかないと思うんですけども、やはり人のぬくもりというか、人がものを作っているんだよと、先端の技術の裏にもこういう人たちがいるんだよというところを見せていってほしいなと思います。そのためには結構取材力も必要だとは思いますがけれども。それ

	と「ワザ」にこだわるのであれば、「ワザ」と「安らぎ」を何とかかけ合わせていけたらいいのかなと思いました。
会長	ありがとうございました。検討案の中にある言葉で、これまでの市民の皆さんのアンケートやワークショップも参考にしながら、この「安らぎ」という言葉もキーワードとしようということです。また写真に関するご意見では、人が生き生きとその場で働いているというような、インパクトのある写真があれば、もっと伝わりやすいということなのかなと思います。今の具体的な提案としては、そういった「心が安らぐ」という言葉、そういったことをつなげてということでございました。これは「安らぎが来る」ということで「安来」ということで、確かスサノオノミコトがそう言って休まれたというような話が元ですよ。
委員	私も思ったのですが、日本各地のプロモーションビデオなどを見たりすることもあるんですけども、それでいくと、まず「つかみ」というのがすごく大事になってくるので、これは紙ベースだと思うんですけども、まず「カッコいい」というのは若者たちの心を捉えるにはとてもいいので、その点はいいなと思いました。それを見て、自分たち若者が一度都会に行って、「こんな安来だから戻ってこようかな」とか「安来ってカッコいいじゃん」とは思うと思うんですけど、自分のこととして「戻ってこようかな」とか「安来で働こうかな」となるには、次の基本計画がとても大切かなと思いました。なので、若者が「安来っていいまちじゃん」と思ったときに、どんなふうに戻ってこられて、どんな生活が豊かになるのかとか、次の段階をしっかりと考えることが私たちの責任というか、市役所の責任になってくるのかなというふうに思いました。私としては取っ掛かりはとてもいいと思いました。 今度は質問ですけども、11 ページの、先ほど農林業は産業などに入るということでしたが、外国人の方が今後増えてきますけれども、外国人との共生についてはどこに入るのでしょうか。
事務局	参画・協働のところに入ります。7 番目のところの。
委員	オール安来というところですね。ここに入るということが分かりました。個人的にはそういうのものはすごく大事になってくると思います。
会長	基本構想の最初で写真が来るというのはインパクトがあるなと思っていました。また、基本計画についてはしっかりしたものでないと大変だなというふうに思っております。 資料の 12 ページにありますけれども、次期総合計画の構成についてということで、今回は最初に写真集、基本構想、基本計画、資料編という並びで作るということで、私も拝見させていただいて、写真集というのは一つのインパクトがあるなと思います。目で見て分かりますので、読まなく

	てもいいと言いますか、この目で見えて理解できると思って読んでいける、というのがいいかなと思っています。この構成についてはこれでよろしいでしょうか。従来とは変わったわけですがけれども、前は序論という形になっていたんですけど、今回はもとより写真集として最初にインパクトを持たせるということですね。写真集、基本構想、基本計画、資料編がある。これはこれで良いところです。その中で、先ほどのメインのキャッチフレーズというか、そういう中では、「ワザ」なんだけれども、そこに心を結びつける、心を休めるということ。そうしたものを取り入れていって、もう少し柔らかいイメージも含めたワザといいですか、あるいは匠の技といいですか、そういった表現を少し考えてまとめていってもらうと。ここで出た意見をさらに事務局の方でまとめていただいて、また次回の審議会で案を出してもらうということではよろしいでしょうか。
委員	だいたい次期の計画もこういう冊子の体裁ですか。この冊子の配布範囲というのは全家庭ではないですね。
事務局	イメージとしては物理的な冊子になります。冊子にしたものは配布までは考えていません。ホームページなどでは公表するんですけども、これを凝縮した概要版を作ろうと思っていて、そういったものは、全世帯に回覧などで見てもらおうと思っています。
委員	市の広報もあると思うんで、やっぱり分かりやすくっていうので冊子も作っておられると思うけど、関係者が見て納得するにはこれだけの冊子にしておかないといけないというのもあるけど、もったいないなと思って見ていて。これよりも概要版みたいなのにお金かけて、そっちを市民にもっと手に取ってもらえるような形にしておいた方がいいのではないかと。今ホームページもあるんですが、なかなかホームページっていかないんですよ、実際のところ。よっぽど必要に迫られたときじゃないと。ダイジェスト版みたいなのが各家庭に、回覧よりも各戸に一部ぐらいずつ、必要じゃないかと。回覧というのは次に回さなきゃいけないので、読まないうちにもう回しちゃうみたいなものだと思うので、実効性を伴うためには配布だと思います。予算にもよるとは思いますが。
委員	若い世代とか女性というところと、今回の総合計画で一番の大事なところ、人口を2070年におおむね20,100人にするというところなのかなというふうに思って考えると、その前段の数字ももちろんあるんですけど、今の若い人と女性とか、例えば物を売るとかサービスというところかというと、どれだけ楽ができるかというものが売れて流行るというのとは逆行しているものを打ち出すという、そこが今までの安来の本質であり大事なところなのかもしれないんですけど、本当に人を増やしていくというところでは考えるともっと柔軟に、本当に住みやすいとか子供が産みやすい。さっ

	きの委員じゃないですけど、私は「何とかしやすい安来」っていうコピーがいいんじゃないかって思っていて。「住みやすい安来」「分かりやすい安来」みたいなワードがいいんじゃないかと思っています。先ほどのキャッチフレーズみたいなところで言うと。 「ワザ」を打ち出してそれを土台に移住定住とか人口を維持すると考えた場合、世の中の流れとは、マーケットとしては逆行している、ニッチな部分に行くというところではご理解いただいております。思うところがあります。なのでそういう人たちにいかに刺さって、こちらに根付いてもらうかというところなのか、もうちょっと広くいろんな方たちに住んでもらうというところなのか、どこを目指してこの人口維持目標を達成していくのかなというところがちょっと大丈夫かなと不安になりました。
会長	若者が外に出て行く考え、あるいは外から帰ってくるということを、人口についても考えると、逆に、いわゆるワザとか匠といった、時間がかかる、手間ひまかかる、みたいなイメージだとどうだろうかというご意見だったと思います。 ただ、例えば隠岐の海士町を見ますと、高校生は都会から大変不便な島にたくさん来て、そこでいろんなものを得て帰るという。そこにまた帰って島で仕事がしたいという若者もやっぱりいるのがあるというふうに感じています。特に島根、安来も含めて、そうした自然環境は豊かなところだし、文化財も多い。そういったまちに来てみたいという若者も、安来のことを知ればいるようになるのかなというふうに思います。私も70何年安来に住んでいますけれども、安来に住んでいるのに安来の良さが分からず、あることが当たり前、してきたことが当たり前みたいな感じで、それが外と比較したときに素晴らしいことだみたいな、思わずに生活してきた期間がずいぶん長かったように思うんですね。70年以上住んでいてもそういう有様ですから。本当に若い世代にも伝えない、言わないみたいなところで来たんじゃないかなと。そういう意味では年配の我々が責任は重いなあなんて思ったりするんですけども。まあ年を取ってから本当に安来はいろんないいところがあるなあと改めて思っております。そういう意味でおそらく今回の総合計画は安来市の市民の皆さんをターゲットに安来はこんないいところがあるよということを新たにお伝えしたいというのが念頭にあるんだろうなと思います。それを出ていく若者が親の世代、祖父母の世代から話が聞いてもらえるようになるとまた違って来る部分もあるかなと思ったり。私も子供が3人いて2人が都会に行って1人が残っている、そういう状態ですので、親としては子どもが近くにいてくれるといいなと常に思うんですけど、ただ子どもの人生の選択は彼ら自身がすべ

	きだと思し、でもやがて帰ってきてくれたら、みたいに思ったりもしております。そういう意味では、先ほどの意見にもありましたけど、安来にあれがあったら、これがあったら、というようなことはあるんですけども。モスバーガーもなくなっちゃった、マクドナルドもなくなっちゃったとか、ビデオ屋さんも全部なくなっちゃったとか、若い人が行きたいところはみんななくなっちゃう、みたいなことになるんですけど。でも安来市はもっとこんないいところがあるよみたいなことが、我々市民の中にもう少し浸透する。そういう意味では、そういうことを分かってもらう。なかなか紙媒体で分からないことが多いんですね。でも方法としては先ほどのホームページもなかなか見ない、そうするとやっぱり、これも少ないかもしれないけれども、どじょっこテレビさんとかで計画的にずっとやっているとかですね、やっぱり地道にやっていくしかないんだろうなと。そういう中でやっぱり安来は住みやすいし、子育てもしやすいよみたいなことをどんどん発信して、まず安来市民がそのことを知らない、なかなか外にはつながっていかないのかなと感じております。なかなか本当に今後の安来のことを考える大きな計画ですから、私たちも知恵を出しながら、また意見を事務局さんにまとめてもらいながら、また次につなげていきたいと思ひます。
事務局	先ほど委員からのご指摘にもあったんですけども、確かにこれからの人口減少社会で人口を維持していくというのがすごく大切なことだということを認識しております。資料2の2ページを見ていただきたいんですが、会長からもご説明があったんですけども、今審議していただいているところはこの一番上の基本構想ということで。もちろん人口減少というのは大前提なんですけども、あくまでもメインターゲットは市民だよということとしております。先ほどの人口減少というところについては、より具体的な事業とか施策をもって対外的にお示ししないとなかなか仰るように響かないところもあると思ひますので、この一番下の総合戦略、5年計画で作っているんですけども、委員が言われるようなところは、こちらに盛り込んでいけたらなと思ひます。結構具体的な事業になってくると思ひますけれども、そこでまた今日のご意見をいただいた中で、作り込みをしていきたいと思ひておりますので、よろしくお願ひいたします。
会長	行政としては、いろんなところで具体的にやっていただいていると思うんです。資料の11ページの3つのシンカのところで、それぞれ7つの項目で、本当は具体的にこんなことをしているよということがないと、何しているのかわからないよという話もあったんですけども、実際にいろんなことをして、施策は動いているということでございます。さっき事務局

	からもありましたが、基本構想については、ターゲットは安来市民ということに中心を絞っておいているので、今のご意見等を踏まえて、大変難しいところは思うんですけれども、事務局の方でそういったことも含めた案を出していただきたいと思います。
委員	カードゲームにするつもりとかありません？基本施策の分かりやすい宣伝じゃないですけれども、子どもたちに分かりやすく伝えて話題にもらいやすくするという。ポケモンカードをパクってカードゲーム化とかする気はないですか。
事務局	今のところ、そういったことは考えていません。ただ、今日お話にあったように、なるべく市民の方とか、いろんな方に手に取っていただいて、知っていただくということがすごく大切だと思っています。見せ方と言われましたけれども、そこをすごく重要視したいなと思っております、ご指摘のように、その写真ということも、硬いものではなくて、もっと人が前面に出るようなものとか。あと今日資料の方でも安来市のワザを落としたマップを7ページでお示ししましたけれども、これはほんの一例であって、委員も言われた少し硬いイメージのものばかり載っているんですけれども、多分いろいろな深掘りをして解釈をしていくと、もっと違う側面の女性をターゲットにしたワザがあったりだとか、若者をターゲットにしたワザがあったりだとか、もう少しこの辺は深掘りをさせていただいて、もっといろんなワザを、マップなのかどうか分からないですけども、お示しして、写真も使って、分かりやすいものにしたいなと思っておりますので。カードゲームは難しいかもしれませんが、手に取っていただくようとか分かりやすいというところはぜひ取り入れていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。
委員	マップいいですね。ここに行ってみようかなと思えるような感じになると思うので、雲樹寺さんもぜひ入れてあげてください。
委員	ワザの読み方に違いがたくさんあってすごく分かりやすいと思ったんですけど、そうしてこのワザを繰り返す匠でございますから、この「安来にワザあり、暮らしに安らぎあり」なところとかも「安来に匠あり」ってするだけで人の気配がするっていうふうになるのはこれはまた面白いことかなと思いました。匠をどうこう言うのは私の意見じゃないですけども。もっと人の香りが漂う、人がいるということを。安来には誰もいない、安来には人がいない。島根には人がいないというのがもう通説でございますので、これを覆すような、人の力であり続ける、この地域の力をもっとアピールしていただくと姿勢を今後期待しております。カードゲームも期待しております。
委員	基本施策 11 ページのこの「シンカ」を各事業の政策に落としていくと

	いうところで、委員からも「これは何になりますか」、「この事業はどの担当になりますか」という質問があったと思うんですけど、このこととつながるかどうかわからないんですけど、例えば0歳から100歳までのこのことにはこの課ですよっていうマップみたいな一枚ものの、赤ちゃん生まれたときは子ども未来課、小学校入ったら教育委員会とか、子育て世代はこの課に関わるサービスの恩恵を受けているみたいなものの安来市の一枚もののサービス丸わかりみたいなものがあるといいなって以前から思っていました。さっき委員もおっしゃったんですけど、アプリがあるとかもわからない、知らなくて使いこなせていなかったり、やっているサービスがいまいちわからない。例えば保育園から小学校に上がったら担当の課が変わるっていうことも、子育てをしながらああそうなんだ、みたいな感覚でなんとなく分かっていくんですけど、分からずに行くとその課じゃないのであっちに行ってくださいみたいなことになったりするので、今回の件とはちょっと関係ないかもしれないんですけど、安来市としてこういうサービスをやっているというものが一元化できるようなものがあるといいなと前から思っていました。
会長	安来市が行っているサービス、全体のマップがあると、市民の皆さんはわかりやすいと。非常に貴重な意見だと思いますし、見てわかる、パッと見てわかるというのが本当にいいと思います。新しいものは作ることが大変だとは思いますが、この基本構想もそうですけれども、分かりやすい、使いやすい、みたいなことを考えて、そういうところも非常に大事なところかなと思います。担当は違うと思いますが、またそちらの方との連携もよろしくお願ひしたいと思っています。

6. その他

事務局より、タウンミーティング実施方針及び今後のスケジュールについて、資料に沿って説明を行った。

<質疑応答>

発言者	発言の要旨
副会長	資料3のタウンミーティングなんですけれども、平日は夜の7時から8時半、休日は10時から11時10分というふうになっているんですが、この平日と休日で所要時間が違うのは何か理由がありますか。
事務局	一点訂正をお願いしたいんですけれども、休日の場合は10時から11時半で、同じ1時間半でやりたいと思っております。また、平日の開催がいいのか休日の開催がいいのかということも含めて、再度検討したいと思っております。
委員	タウンミーティングについて質問ですが、基本構想などは若者向けだったりするんですけれども、中学生とか高校生とか、そういう方の参加は想定していないということですよ。平日ちょっと遅めだったりしますけど。そういう方は想定していますか。
事務局	メインとしては考えていないというのが正直なところです。ただ、参加を拒むわけではありませんので、ご都合がつく方は特にそういった制限を設けずに参加していただけたらと思っております。
委員	先ほどの写真ですとか、結局子どもや若者が見たときにどう思うかというのは若者に聞かないとわからないと思いますので。正直、ここの場におられる方は年齢層が高めだと思います。市内の高校ですとか中学校、小学校といった場でもタウンミーティングではないですが、「今こういうことを考えていて、こういうことをしようと思っているんだけど、君たちはどう思う？」というような意見聴取をした方がいいんじゃないかと思います。今後のスケジュールを見ると、もちろんここの委員会でいろいろな内容を詰めていって、最終案ができると思うんですけど。4回目が終わった後にパブリックコメントになりますよね。それをおそらく高校生、中学生、小学生が見ることはないと思うので、それまでのところでどこかで子どもたちの意見を得られるような場があった方がいいんじゃないかと思います。例えばですが、安来市でこういう取組をしていて、放課後に話を聞いてみようという子がいたら集まってください、というような呼びかけもできます。そういう形で米子高専だったり松江高専だったり県立大学だったりというところで、学生向けにスポットを当てたイベントがあったらいいんじゃないかと思いました。以上です。

会長	若い世代を対象にしたタウンミーティングがあった方がよいのではないかと。これからを担っていく世代を対象にとのことでしたので、また検討してみてください。
----	--

7. 閉会

事務局よりあいさつ（宇山部長）



以上